



平成20年3月19日NO18 教職員の評価特集号
 京都市立室町小学校 校長 倉中 増夫
 (075)431-0358 Fax(075)431-0359

春の暖かさを感じさせる毎日になってまいりました。さて、先日来「学校評価」について順次、お知らせしてまいりました。最後に後期の教職員の自己評価についてお知らせいたします。6つの項目について成果と課題、解決のための方策について、全教職員が振り返りを行いました。後期の間、教職員がどのような考えで学校教育の取組を進めたのかお分かりいただけたと思います。ここで出された成果や課題は来年度の取組に活かしてまいります。

* 評価の数値は%を表しています。

評価項目	評価			
<目指す子ども像について>考える子・表現できる子・やさしい子・がんばる子に、子どもが育ってきている。	A	B	C	D
	5	90	5	0
<ul style="list-style-type: none"> 自分だけでなく、回りにも目がいくようになり、友だちやクラスのことを考え活動できる児童が増えてきた。自分の思いや考えを伝えようとする姿が増えてきたが、まだ個人差がある。 算数科の授業を中心に話し合い活動を活発にし、互いに高め合うことができた。 学習面、生活面共に教師の言葉を受け入れられる子が多い。支援の必要な友だちを自分たちなりに温かく接している。 考える子、がんばる子については算数の学習を中心として育ってきた。しかし、やさしい言葉をかけられない児童もいる。 学校全体を見るとやさしい子が多いと言える。考えて行動することも常々伝えてきた。どの学年も「表現できる子」という所に力の差が見られるように思う。算数の研究で、さらに「自分の思いが言える子」を育てなければと思います。 自発的に考え、行動する子どもに育ちつつある。 少しずつがんばれるようになってきているとは思いますが、自分の思いをまだ表しにくいし、考える力が弱いと思います。 みんなの認め合える学級づくりや授業の中での発表の仕方の工夫などにより、表現できる子、考える子、やさしい子には育ってきていると思う。さらに集団の中で、高め合える力をつけていきたい。 友だちに対してやさしい言葉かけができる子どもが増えてきた。自分の考えや思いをもってはいるが表現することが苦手な子どもに対して、学級内で自信をもち表現できる場面をつくっていきたい。 「やさしい子」「がんばる子」「考える子」には育ってきているが、「表現できる子」については不十分である。 最後まであきらめず取り組みががんばる子、やさしい子には育っている。しかし、表現できる子はまだまだ不十分な点が残る。 少しずつの変化は見られてきているが、まだ少しの伸びなので、根気よく指導していく必要があると強く感じている。 3年生については、少しずつですが考える力や表現できる力が育ってきていると思いま 				

す。他学年について、5年生は表現という面では課題が残ります。様々な場面（学習、生活共）で児童の表現の機会を増やすよう工夫したい。どの子にも発言や発表をさせたいという教師の思いや願いをもつことが大切だと思います。

- ・ 日々の学習・生活の中で自分が考えて自分で決めさせる指導の継続によって、考える子が育ってきているのではないか。担任の細かい観察に基づいた日々の声かけ励ましが子どもを変える。分かり切ったことだが、意識を高めることが大切だと思う。
- ・ 部活動の子どもたちが持久走のグループ分けでより速い上のグループに入ろうと、一生懸命走る姿や「グループ上がった！」と話しに来てくれることから、子どもたちの意欲を実感している。
- ・ 表現できる子はまだまだであるが、考える子には育ってきているように思う。人前ではっきり意見をいうにはそれを聞く姿勢も大切であると思う。その指導がまだ弱いように感じる。
- ・ 担任をもっていない者の目から見た意見として、挨拶一つにしても子どもなりに人を選んでいるところがある。
- ・ 「おはよう」や「さようなら」を自分から言ってくれる児童が増えてきた。挨拶が進んで言えることが児童が育ってきている一歩だと思う。
- ・ 思いやりのある子どもになるよう見守っていきたい。

<総括>

年間を通して考察すると目指す子どもに育ってきている場面が多く見られる。しかしながら、話し合い表現するという本校の研究で重要にしている部分がまだ弱いと考える。

評価項目	評価			
<学年目標・学級目標について> 学年や学級の目標が子どもたちに意識され、変容が見られてきた。	A	B	C	D
	8	92	0	0
<ul style="list-style-type: none"> ・ クラス遊びがおもしろいと感じはじめている。遊び係が自ら決めリードしていく力もだんだんつきつつある。集団として言動について考える児童が増えてきた。 ・ 学級目標を常に意識させてきた。困っている友だちにやさしく声をかけたり、手助けしてくれたりする子を認めクラスの中でほめてきた。友だちを大切に、誰とでも仲良くするよう努力してきた。 ・ 気になる言動については時には学級全体で時には個々に対処してきた。 ・ 学年目標を児童たちと一しょに確認できなかった。私自身の心の中では常に意識していたが、児童と共通認識できていなかったことが悔やまれる。 ・ 友だちにやさしく自分も大切にすることを目指してきた。人数は多いが、人に対する思いやりや声のかけ方をみんなで学んだ。自分の可能性を伸ばそうと自主学習やリコーダー・なわとび・鉄棒などへチャレンジしたが個人差が出てしまった。 ・ もうすぐ高学年になるにあたり、少しずつ自発的な子どもの姿が見られてきた。 ・ 上の目指す子ども像から学級目標を立てたが、まだ十分変容が見られません。基本的な話すこと、聞くことが弱いです。 ・ 仲間意識を育て互いに認め合って思いやりがもてるよう指導してきた。日常生活の中で言葉づかいや気になる行動については見逃さず、指導するよう努めてきた。 ・ 相手の気持ちを考えて行動することができるようになってきた。言葉づかいがよくなった。 				

- ・ 大きな変容は見られないが、折りに触れ、目標を意識するように話したり伝えたりしていることで、少しずつだが努力しようとしている姿は見られてきた。

<総括>

学年により、クラスにより担任が考えている到達点までは、届いていないことがある。

評価項目	評価			
	A	B	C	D
<学習指導について> 各教科の基礎基本の内容が定着するように、指導の充実に努めた。	26	74	0	0
<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返し、基礎的なことを練習し、一人一人の課題を把握するようにした。だんだんと計算や漢字などの力はつきつつあるが、なぜこのように考えたか説明をうまくできない児童がいるので、その力をつけていかなければと思う。 ・ 昨年1年生の学力調査の結果、誤答の多い単元、問題に力を入れてくり返し学習してきた。子どもが意欲的に取り組めるよう教材を工夫してきた。 ・ 学習には全般に真面目に取り組める。発表できる子も昨年に比べ、増えてきたように思う。 ・ 全体の前で発表することが苦手な児童が多いので、2人組で話をするを続けてきた。ノートは毎日集め、チェックしてきた。 ・ 算数に関しては特にノート指導、学習に向かう姿勢、集団での話し合いが4月に比べ、ある一定の成果が出てきた。「表現」の力についてはまだまだつけられていない。 ・ 基礎・基本的なことを反復学習の中で何度も学習できるようプリントを使用した。 ・ できるかぎり教材研究はしたが、時間不足で不十分な面もあった。 ・ 子どもが興味をもち、意欲的に取り組めるよう教材を工夫してきた。高学年として自学自習の力をつけていきたい。個別指導の必要な児童の学力向上に努めたい。 ・ ノート指導やねらいを明確に授業をすすめていくことで、各教科の基礎基本の内容が定着してきた。家庭学習を推進していくことでより一層の基礎基本の内容の定着を図ってきたい。 ・ 課題や調べたこと、考えたことが分かりやすいノートのとり方を指導している。 ・ 学習が定着するように、繰り返し復習に努めた。 ・ 国語・算数は個別もしくは二人一緒にゆっくりと取り組んでいる。特に3年のAくんは、計算(暗算)も速くなり、自信をもってやる気を出してきた。 ・ 課題把握の工夫や自力解決での支援の工夫、集団解決の場面では多くの児童が発表し、友だちの考えに付け足しや質問をしたりできるような指導支援を工夫した。(算数) ・ 教材研究をしっかりと1時間1時間のねらいを明確にした授業を心がけることが大切である。評価と指導の一体化を図るため毎時間の評価を子どもに返すことが大切である。 ・ 保健学習や性教育について、資料作成したり担任と打ち合わせをしたりして進めていった。 				
<p><総括></p> <p>担任や養護教諭が工夫しながら、授業に取り組んでいった様子が分かる。この項目でも表現することの弱さが指摘されている。</p>				

評 価 項 目	評 価			
<生徒指導・児童理解について>一人一人の子どもの願いや生活背景を把握し、よいところを見つけ認めてきた。	A	B	C	D
	26	69	5	0
<ul style="list-style-type: none"> ・ 良い点,頑張っている点を全員の前でほめ,次の行動に活かせるよう励ますようにしてきた。また,友だちにいやなことを言われて,すぐ頼ってきた児童も自分で解決しようと相手に自分の気持ちを伝えるようになってきた。 ・ 一人一人の子どもの家庭環境に配慮しながら,声かけをし,よいところを見つけみんなの前でほめるようにしてきた。 ・ 朝や中間,昼休み,放課後などに児童と一緒に過ごす時間を多くし,家でのことやクラスでのことなど,たくさん話を聞けるよう努めた。 ・ 一番力を入れた所ではあるが,全員の力や思いを把握し伸ばせたとは言えない。とても成長した子もあるが,あまり変化が見られなかった子もあり,反省している。 ・ 子どもたちの発言がどういう思いでなされたかを休み時間や放課後にじっくり聞くようにした。 ・ ちょっとした失敗を気にしたり,やる気をなくしたりするので,小さなことでもほめるようにしていった。 ・ 一人一人の子どもたちの生活背景や悩み,願いを知るために努力してきた。気になる行動が見られた時は,個別に話し合いをし,保護者と連絡を取るようにした。 ・ 子どもとの話を最後までしっかり聞き,話をすることで,子どもとの信頼関係を築くことができた。 ・ お互いに認め合う,雰囲気作りに努めた。 ・ 一人一人児童把握ができるように努力してきたが,あまり会話が進まない児童もいた。 ・ 一人ずつの良い点,良い所を認めてほめ,自信がもてるよう努めてくると,やる気を出すようになってきている。 ・ 3年,5年とも,生活背景を把握するところまでなかなか出来なかったが,できる限り良さを認め励ましてきた。担任とできるだけ話をし,児童理解を進めるようにした。 ・ 子どもに関する情報を担任と共有して,同じ姿勢で見えていくことが,子どもを変えていくことにつながる大切なことだと思う。 ・ この行動はどういう思いから起こったのか考えて,子どもの気持ちを理解するように努めた。また,小さなことでもいいところを見つけたら,直接ほめたり担任に伝えたりした。 ・ 全教職員の会話などでより理解を深められて助かった。 ・ できるかぎり児童の名前を覚え,声かけなどでかかわってきたことで,児童の方から楽しい時,困った時に話してくれるようになった。話してくれる関係が大切だと思う。 ・ 休み時間にいっしょに遊ぶように努めた。 				
<総 評>				
他の項目に比べ,Aのポイントが高いのは児童理解に努めたいという教職員の強い願いがあります。				

評 価 項 目	評 価			
<p><家庭との連携について> 保護者の思いや願いを把握し「学級通信」や家庭訪問で家庭との相互理解を図った。</p>	A	B	C	D
	30	70	0	0
<ul style="list-style-type: none"> ・ 予定表を通して家庭や学校との連携を図るようにしたが、後半、一言を書いてくる家庭が決まってきて残念に思った。参観はいつもたくさんの方が来ていただけたように思う。 ・ 週予定に保護者からの欄を設け、1週間に一度、様子や思いを書いていただくことにより、保護者の思いや子どもたちの家での様子がよく分かった。お返事を必ず書き、時には電話連絡をしたり、家庭訪問をしたり、保護者との連携を密にしてきた。 ・ 気になる様子は家庭に伝え、また必要に応じては家庭訪問をしてきた。週予定でも、子どもたちの様子をできるだけ伝えるようにした。 ・ 電話や家庭訪問で家庭と連携を取るよう努めた。 ・ 学習予定表のコメント欄に今年は多くの保護者(低学年ということもあり)が毎週書いてくださった。お返事を書くのは毎週大変だったが、保護者の願いを早く感じ取り行動することができたと思う。 ・ 毎週の学習予定表に子どもたち一人一人の成長の成果を記してきた。また、家庭訪問を行い保護者との会話も大切にした。 ・ できるかぎり良いところを見つけて、伝えるようにしました。 ・ 学習予定表に保護者からの欄を作り、家での様子や思いを書いていただいた。返事を書いたり、必要な時は連絡を取った。交流の場となり、良かった。 ・ 家庭訪問を積極的に行い、家庭との連携を密にし、理解を深め生徒指導の充実を図ることができた。 ・ 子どものことで気になることがあったら、すぐに保護者に連絡を取り、相互理解を図った。 ・ 学校の様子や家庭での様子を共通理解するため、できるだけ連絡を密にしてきた。 ・ タイムリーな話題となるよう内容を検討した。ホームページを活用した。 <p><総 評> 学習予定表、家庭訪問、電話連絡などで家庭との連絡を密にし、連携していこうとしている姿勢が強くでています。</p>				

評価項目	評価			
<地域との連携について> 地域と連携・協力した取組を取り入れ、地域の教材の発掘・活用に取り組んだ。	A 6	B 82	C 12	D 0
<ul style="list-style-type: none"> ・ 昔遊びの取組で女性会の方々と楽しい交流ができてよかった。子どもたちもとても熱心に教わっていた。これからもいろいろな機会をつくって交流していきたい。 ・ 生活の「むかしあそびをしよう」では、地域の女性会の方々にお世話になり、昔遊びを教えていただいた。ゲームクラブでは、地域の方に囲碁・将棋を教えていただき、大変協力していただいて感謝している。 ・ 生活科での町探検で、事前や当日直接いろいろとお世話になり、地域との連携が深められた。 ・ 子どもクッキングには参加できた。なるべく、地域行事に参加するよう努めた。 ・ 総合や社会を通じて、コミュニティー・ティーチャーの方の協力を多くいただき、授業を組み立てることができた。地域素材を扱う学習が多い学年であることも特徴であった。 ・ ワイワイカーニバルやもちつき大会など可能な限り、PTA や地域の行事に参加した。 ・ なかなか地域の行事には参加できなかった。 ・ 地域との連携については不十分な面もありますが、できることから参加するようにしました。 ・ 卒業記念の篆刻を、地域の方に教えてもらいました。 ・ 篆刻では地域の方に来ていただき、一人一人温かい指導をしていただきました。 ・ 1年生、3年生と一緒に地域の方々との連携・活用をはかり、前よりは取り組んできた。 ・ 地域のみなさんの協力で子どもたちにもいろいろな物品も提供できて良かった。 ・ 地域の行事の準備や手伝いをできるかぎりやってきた。地域の方々との連携は、子どもを育てる学校にとっても大切なことだと思う。 ・ 常日頃から地域の人々と挨拶を心がけ、コミュニケーションが取れるように努めた。 <p><総 評></p> <p>担任は、生活科・社会科・総合的な学習で、地域の方々のご協力を得ながら学習を深めることができた。特に室町小学校には、豊富な地域の教材があり、まだまだ活用できていないものもある。来年度、新しい学年で地域の教材を発掘していきたい。</p> <p>教員以外の職員については、地域行事の準備や後始末など、それぞれの持ち場で協力をしています。</p>				

その他の課題と解決のための方策について

- ・ 学年目標の「聞いて学ぼうとする子」について、学習中に友だちの発言を聞いて、うなずく子、「なるほど」などのよい反応がある児童を学級全体に紹介したり、ほめたりすることを続けてきた。また、友だちの意見に対して「いいです」「同じです」「おねがいします」の言葉で反応するように話し方、聞き方の約束を提示してきた。最近では「～さんと似ていて～」という言葉をつけ足したり、「続きは～」など友だちの意見に付け加えたりすることができる児童が増えてきた。しかし、ただ反応するだけになってしまい、よく分からないのに「いいです」と言ってしまう児童がまだいる。友だちの意見を聞きながら、自分の思いを表現することも大切だということ、「他にも不安に思っている友だちがいるかもしれないよ」ということを伝えていきたいと考える。

- ・ 時間のけじめがないように思う。チャイムを意識させたい。そのためには、授業者も意識して授業する必要があると思う。
- ・ トイレのスリッパがそろわないのは永遠の課題のようである。生活習慣に影響されているところが大きいと思うので、家庭でも玄関のくつのぬぎ方など、学校と一緒に考えてほしい。その反面、いつもそろえている子がいることもお知らせしたい。
- ・ 挨拶がまだ十分ではない。児童会で挨拶について取り組み、もう少し意識付けてはどうかと思う。
- ・ 全教職員の横のつながりがもっと必要だと感じた。仕事の面でも、心の面でも私たちの同僚を思いやる心から子どもたちにも室町を大切に作る心が広がると思う。
- ・ 授業中、発言する子どもが特定してしまっている。毎時間、全員発表のある授業をしていきたい。ノートや休み時間の子どもたちの会話の中で、授業が楽しかったという発言を少しでも多く増やしたい。